

熊本大学における生成 AI の教学面の取扱い指針（学生向け）

令和 5 年 9 月 28 日 教育研究評議会決定

1) 利活用可否の検討、利活用が想定される場面例

2022 年秋に発表された ChatGPT をはじめとする生成 AI は、その利便性とともな危険さも広くニュースなどでも取り上げられており、すでに利用されている方もおられることと思います。生成 AI は、周知のように、文章のみならず、動画を含めた画像や音声・音楽、コンピュータプログラムを生成することができるものもあり、今後、急速に日常生活に入りこむ可能性があります。

授業やゼミなど大学での学修に生成 AI を利用することの可否や利用方法については担当教員の指示に従う必要がありますが、ここでは学修のみならず日常生活での利用に際し、留意すべき事柄を整理していますので、適切な利用に努めてください。

2) 留意すべき観点

2-1) 生成 AI と学修活動との関係性、成績評価

ChatGPT などの生成 AI を使ったことがある人は、「レポート課題作成に便利そうだ。時間がないときは、生成 AI の答えを丸写しで提出してしまおうか」という誘惑に駆られたことがあるかもしれません。

しかし、生成 AI の答えを丸写した場合は、その課題の点数は 0 点になることはもちろんですが、なにより大学での学びは、自分の将来を切り開くためにあるものです。AI の答えを丸写しするような人には、社会に出てから活躍の場が見つけられない（AI に取って代わられる）未来が待っているだけでしょう。

2-2) 生成 AI の技術的限界（生成物の内容に虚偽が含まれている可能性）

生成 AI を自分の学修に主体的に活かすことは意義のあることですが、ハルシネーションと呼ばれる、もっともらしい嘘の情報がしばしば含まれていたり、公平性を欠くような考えや表現が含まれていたりします。加えて、ネット上にある様々な著作物を用いる動作原理上、特定の著作物がそのまま出力される場合があり、著作権上の問題も大きな議論となっています。このように、生成 AI の出力結果を鵜呑みにして無批判的に用いることは大変危ういことです。ChatGPT などの生成 AI を使いこなすには、正しい専門知識が必要であることをしっかりと認識してください。

2-3) 機密情報やプライバシーなど個人情報の流出・漏洩等の可能性とその防止策

ChatGPT 等の生成 AI でデータを生成する場合、個人を特定できる情報や所属研究室の未発表の成果などの機密情報の入力は避けましょう。また情報漏えいの対策としてオプトアウト（学習機能の無効化）を利用してください。なぜならば、生成 AI は利用者に対するサービス向上のため、入力されたデータを使って学習しているからです。そのため、生成 AI 経由でプライバシーなどの個人情報や機密情報などが漏えいする可能性があります。このような事態を避けるために、ChatGPT を運営する OpenAI 社は学習を無効化するオプトアウト申請用フォームを用意しています。これを利用してオプトアウトを実施し、生成 AI に守るべき情報を学習させないようにしておきましょう。

Data usage for consumer services FAQ:

<https://help.openai.com/en/articles/7039943-data-usage-for-consumer-services-faq>



User Content Opt Out Request:

<https://docs.google.com/forms/d/1t2y-arKhcjlKc1I5ohl9Gb16t6Sq-iaYbVFEbLFFjaI/edit?ts=63cec7c0>



2-4) 著作権に関する留意点

ChatGPT 等の生成 AI されたデータには、他者が作成した文章、画像、音楽、映像などの著作物が含まれている可能性があります。生成 AI を使用して得た情報は適切に引用し、著作権を尊重してください。

生成したデータを SNS などに公開する前に、または課題の成果物として提出する前に、それらの著作物の利用条件を Google などの検索サイトで必ず確認するようにしてください。利用条件に合致しない場合や利用条件そのものが見つからない場合は、著作物を削除し、適切に修正してください。なお、不適切な目的や違法行為に生成 AI を使用してはいけません。

なお、生成 AI は今後も急速な進歩を遂げると想定されており、本指針も随時見直しを行う可能性があります。